

今回は、児童デイサービス「べるにこっこ」にお邪魔してきました。「べるにこっこ」とは、べる（美しい（仏語）、にこっこ＝笑顔、を組み合わせた言葉で、子ども達の美しい笑顔に出会うため、平成23年3月に開設されました。

1歳から小学3年生までの「幼児クラス」と小学2年生から高校3年生までの「ジュニアクラス」の2つに分けられており、年齢に応じた療育が行われています。スタッフは約20名と充実した支援体制が取られており、調理師、保育士、社会福祉士、養護学校教諭経験者など、約9割が有資格者で占められています。スタッフは、調理員、専属の運転手、指導員などに分けられ、それぞれの役割において子どもたちの支援に注力できる体制が取られています。

### 1 食育について

べるにこっこでは、「食育」、「德育」、「知育」の3つを大切にしており、中でも未就学児の給食を中心とする「食育」は、子どもの成長の基礎になるものとして重要視されています。代表の佐藤さんは5名いる調理員の方々に対し、「私たちが子どもへの頃に比べてもらえたおやつを再現しよう」と伝えられており、保存料、甘味料

などが添加されていなかった時代の、素朴で、体に優しいおやつを作ることへの心がけられているそうです。また、給食に使用する野菜は、家庭菜園で育てたミニトマト、ピーマン、ジャガイモなどを使用しており、ピーマンの素揚げをおやつに出した時には、これまでピーマンが食べられなかったが、「おいしい！」と言って、その後ピーマンを食べられるようになった子もいるそうです。食育を通して、子どもたちが人とのふれあいを大切にし、感謝しながら、明るく食卓を囲める子になれることを目指されているそうです。



道産食材を使用し、化学調味料を抑えた体にやさしい給食です。

2 子どもの主体性を大切にする取り組み  
ジュニアクラスでは、個人の学習・宿題を持ち込み、レベルアップに励みますが、この年代になると、子どもたちが抱える課題やニーズ、望むものは様々であることから、「教え込むこと」ではなく、「考えること」を重視されています。子ども一人ひとりに応じた教材作りを行ったうえで、指導員が、子どもの課題を整理し、真剣に聞いて、勇気づけることで、子どもたちが自分の課題に「主体的に」取り組めるようになれる支援を行っています。中には、中学校まで不登校だったが、べるにこっこで勉強をやり直したことで高校の合格につながった子がいて、その子は、べるにこっこでの主体性を生かした支援と学習を通じて「初めて勉強する楽しさを知った」とおっしゃっていたそうです。

また、べるにこっこでは、「絵本の読み聞かせ」を大切にされています。幼児クラスではえほん図書館、ジュニアクラスでは中央図書館に行く行事も企画し、子どもたちに絵本などを選ばせ、読み聞かせを行うことで、左脳と右脳がバランス良く発達し、柔軟な思考能力が身につくことを目指されています。絵本は年に5、60冊買うこともあり、その蔵書数はかなりの数になっているそうです。

3 べるにこっこのモットーについて  
べるにこっこでは、「①怒らない、②叱らない、③静かに、④穏やかに」をモットーにされています。子どもの行動に対して、怒ったり叱ったりしてしまいたくなくなることがありますが、子どもは自分の行動がなぜ怒られたのかが分からず不安定になってしまつこともあるため、指導員の方は、子どもたちが自分の行動の「意味」や「わけ」を知ることが出来るまで、静かに、穏やかに、真剣な目でじっくりと伝え続けることを大切にされています。

そのため、これらの支援はマンツーマンで時間をかけて行うことが必要になりますが、それを実現しているのが、充実したスタッフの支援体制とのことです。  
べるにこっこでは、明確な「理念」があり、その理念のもと、スタッフの方々が「丸」となって、子どもたちの「その子らしさ」や「未来」を見すえた支援が行われているように感じられました。

〈連絡先〉064-09552

札幌市中央区宮の森2条1丁目3-10

宮の森2条マンション201号・202号

児童デイサービス べるにこっこ

電話 011-8007-5714

FAX 011-213-7214